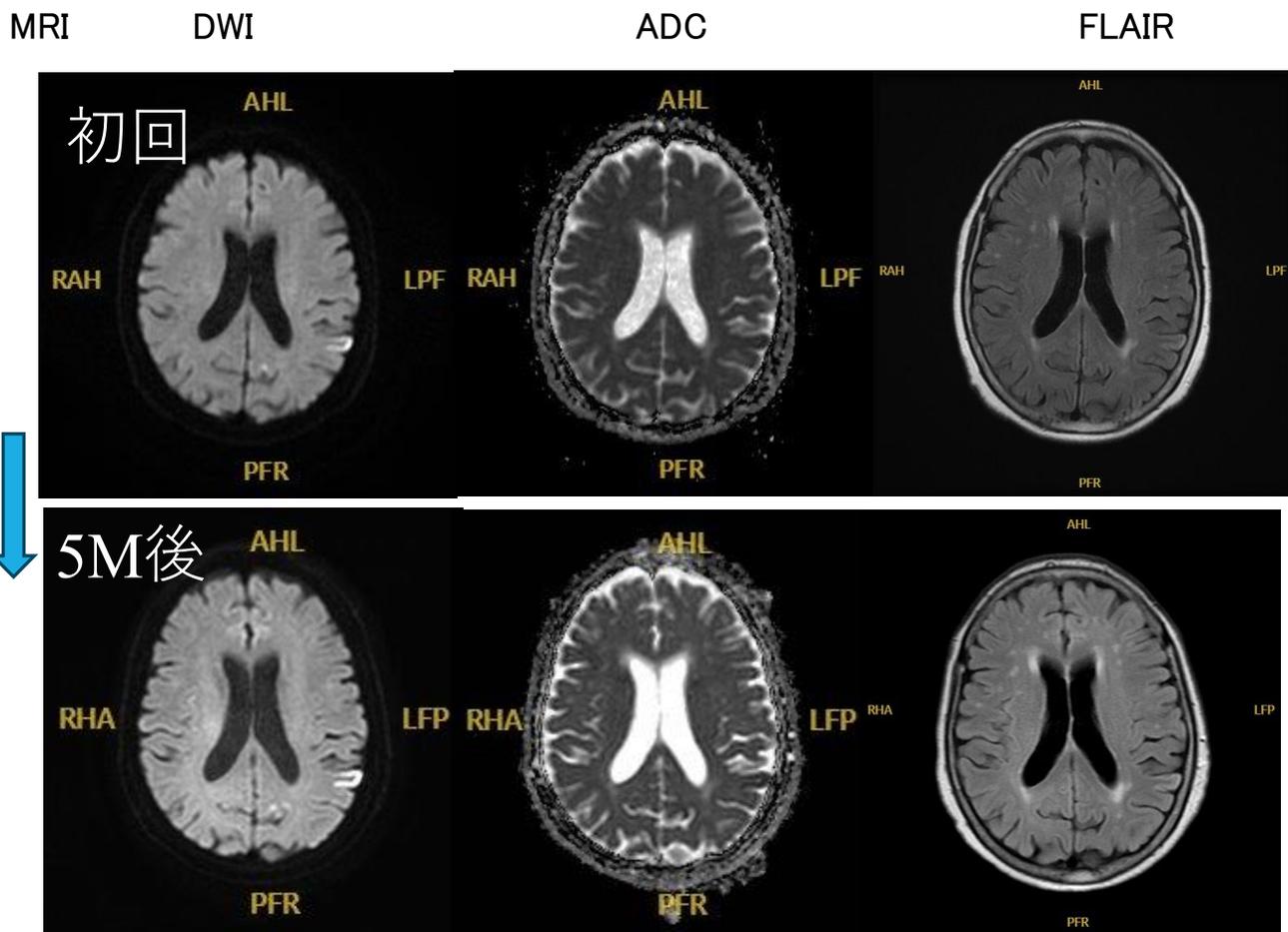


CJD早期症例におけるMRIを用いた早期診断の検討

研究分担者: 徳島大学医歯薬学研究部放射線医学分野 原田雅史



解説

1. 治療薬開発の観点から、プリオン病早期診断の必要性が高まっている。
2. 症状が軽微な時点よりMRIで異常を認めたが、当初CJDの診断に至らなかった症例を中心に検討した。
3. 進行性認知症や脳波のPSDを認めない場合には、脳梗塞等他疾患を疑われ、治療が行われることがあり、RT-QuIC等の髄液検査によってCJDと診断される場合がある。
4. RT-QuICの有用性を示唆する研究が多いが、早期に髄液検査を行うためには、MRIのDWI高信号が大脳皮質や線条体、視床等の1カ所に認められる場合でも、他疾患を鑑別して髄液検査を行うことが重要と考えられた。